

市民税の増額要因について、当初見込みより、個人市民税は減収幅の縮小、法人市民税は分割法人の業績改善による、との答弁があった。

減債基金の積み立ての考え方については、財政調整基金は、過去の残高の推移から12月補正後の一般分残高約16億円で今後の財政運営が可能と判断し、学校建設に係る元利償還により25年度から増加が見込まれる公債費に備えて減債基金を積み立てることとした、との

答弁があった。

旧金勇の利活用について、21年度から試験的活用を実施しているが、基本的な活動方針として市民や観光客に「木都能代」を象徴する建造物を見ていただくこと、市民の文化活動等の場として活用していただくことにより、貴重な木造文化財として現在の形態を保持しながら持続的に活用していきたい。また、現在県立大を中心に進められている「天然秋田杉銘木を用いた地域木造文化資産

の再生活用方法」に関する調査研究の報告書提出後、23年度に利活用計画の策定と改修工事を行う、24年度には本格的供用を開始したい。管理業務は24年度から実施できるかどうかかわからないが、今後指定管理者による管理について検討を進めていく、との答弁があった。

り方についてしっかりと議論していただきたく考えている、との答弁があった。

新しい陸上競技場の利用について、幼稚園や小中高生は、これまでと同様に使用していただきたい。また、一般の方については使用目的に沿った使用であれば個人、団体問わず制限はないと考えるが、管理上施設する必要があり、早朝や夜間の使用は難しいと考えている、との答弁があった。

り方についてしっかりと議論していただきたく考えている、との答弁があった。

フツ化物洗口推進会議

総務企画委員会

文教民生委員会

委員会審査報告



環境産業委員会

環境産業委員会

建設委員会

能代市温泉条例の制定に關し、温泉の現況及び維持管理費について、当温泉は日量260立方メートルをくみ上げ、13カ所へ203立方メートルを給湯しており、十分な供給量がある。また今年度の温泉使用料は約120万円、経費は電気料等約240万円だが、入湯税が約150万円で、ト

ータルでは市の財政に貢献している、との答弁があった。

能代市工業団地交流会館を利用しやすくするため、PRに努めるとともに、車で入りづらいために、入り口をふやすことについて、PRの必要性は認識しているが、道路沿い等に看板を立てるためには条件整備が必要なため、現段階では検討課題としたい。また、県道から入る方法も考えられるが、工業団地の緑地になつており、簡単にはいか

ないと思われるものの検討したい、との答弁があった。

農作物の減収に直接的な助成をすることについて、現状では行政による直接的な助成は困難で、今後の国等の状況を把握した上で考えたい、との答弁があった。

食育推進計画の進捗状況について、これまで委員会を3回開催し、今年度中には計画を策定したいと考えている、との答弁があった。

での教職員の理解について、会議では特に異論はなく実施方法等に質疑があった。会議開催前の研修会や検討会に学校、保育施設、幼稚園の関係者に入っていた、といったほか、先進地視察も行っており、その中で理解していただけたものと思つており、との答弁があった。

(針金)

専決処分した手数料条例の改正について、知事から権限移譲された優良宅地の認定審査事務の手数料を定めるためのものである。本市では既に条例により税の軽減を受けることができ、申請はないと思われる。

平成22年度簡易水道事業・下水道事業・浄化槽整備事業特別会計及び水

国が補助金から交付金へと制度を変えたことによる影響について、ほぼ要望とおりの金額が交付され、さらに来年度事業の前倒しもでき、満足できる内容と考えている、との答弁があった。

中川原橋架替工事について、平成23年中に完成して供用したい、との答弁があった。

道路新設改良である材

木町東能代線と東能代道地線について、27年度まで事業費約1億7900万円を見込み、富根本線については、平成25年度まで約9000万円を見込んでおり、との答弁があった。

除雪体制について、前年度の担当業者が辞退した区域では、隣接区域業者やその地域の新規業者等に打診している。契約業者へは遂行状況を確認することにしており、との答弁があった。(信太)